

スクリーンインキ

反応型インキ

一般印刷 | 二液反応型

SIMインキ 3200シリーズ

インサート成形及びインモールド成形用に開発した二液反応型インキです。
低温で硬化し、耐熱性に優れた柔軟性の高い硬化皮膜を作ります。

製品の特長

- 80~90°Cの低温で硬化します。
- 皮膜が柔軟で且つ強靱な皮膜となり、成形時の追従性が優れています。
- 耐熱性が高く、インサート成形やインモールド成形性が良好です。

特性

後加工性

強靱な皮膜

柔軟性

成形時の追従性

接着性

低温硬化性

耐性

耐熱性

耐薬品性

推奨被印刷物

材質

一般プラスチック

アクリロニトリルブタジエンスチレン [ABS]

プラスチック

汎用プラスチック

汎用プラスチック銘板

ポリカーボネート [PC]

PCシート

PC銘板

ポリエステル系

未処理ポリエチレンテレフタレート [PET]

PETフィルム

処理ポリエチレンテレフタレート [PET]

処理PETフィルム

最終製品

銘板

後加工・二次加工

インサート成形

インモールド成形

仕上り・質感・見た目の効果

仕上り

グロス

カラー・グレード

標準色（一般色）



標準色（耐候色）



スペック

荷姿	付属品
1kgインキ缶	硬化剤JA-930（100g金属缶）

使用方法

- 次の比率でインキと硬化剤JA-930を混合してください。
 - インキ 100部
 - JA-930 15部
 - PC溶剤 10～30部
- 可使時間は常温（20℃）で約8～10時間です。

刷版

版の種類	洗浄	推奨印刷膜厚
写真版	ビニール洗用溶剤	厚

硬化方法・硬化条件

蒸発乾燥条件

指触乾燥	硬化乾燥
80℃ 5分	90℃ 30分 (最低80℃ 40分、最適100℃ 20分)

試験データ（環境・物性・耐候性・性能など）

条件

インキ	単色刷り：標準色前色 重ね刷り：3201白 + 3246藍 + 3290黒
希釈溶剤	PC標準溶剤
硬化剤	JA-930 15%添加
印刷素材	0.5mm帝人パンライトシート
刷版	250メッシュ
乾燥条件	工程乾燥：100℃ 5分 最終乾燥：100℃ 20分

結果

試験項目	試験方法	結果
接着性	クロスカットセロテープ剥離試験	100/100 剥離なし
鉛筆硬度	JIS K5400 鉛筆引っ掻き試験	7H~9H
耐衝撃性	JIS K5400 デュポン式衝撃試験機 φ 1/2in、500g、50cm	割れ、剥離なし
耐屈曲性	JIS K5400 耐屈曲性 2mmφ	割れ、剥離なし
耐熱性	100°C 72時間	異状なし
耐水性	50°Cの温水中 24時間浸漬	異状なし
耐湿性	60°C 95%RH 120時間	異状なし
冷熱サイクル	-30°C (2h) → 常温 (2h) → 80°C (2h) → 常温 (2h) これを30回 (240時間)	異状なし
耐溶剤性	指圧荷重500gによる摩擦試験 剥離するまでの回数	エタノール含有：15~60回 ガソリン含有：12~40回
耐酸性	1N H ₂ SO ₄ 溶液 24時間浸漬 (常温)	異状なし
耐アルカリ性	1N NaOH溶液 24時間浸漬 (常温)	異状なし

耐候性一覧

等級	色名
7	3200メジウム 3208赤 3235浅葱
7-8	3201白 3206金赤
8	3212黄 3213青黄 3214赤黄 3216ピンク 3218紅 3225紫 3228オレンジ 3238赤 3245濃藍 3246藍 3275グリーン 3287群青 3290黒

- 上記の等級は濃色の場合であり、淡色の場合は耐候性が低下します。
- インキをメジウムや白インキで薄めて印刷すると、原色の場合よりも耐候性が大幅に低下します。

注意事項

- SIMインキを80～90℃で硬化した場合に、まれに耐熱性が不足することがあります。
耐熱性を向上させるには次のような方法がありますのでお試しください。
 - 硬化温度を100℃に上げる。
 - 硬化剤をJA-930からJA-970に変更する。
(皮膜がやや硬くなり、ポットライフが4～5時間になります)
 - 硬化促進剤JA-E11を1～2%加える。
(ポットライフが1～3時間になります)
 - 硬化剤、及び硬化促進剤は、湿気と反応して硬化するため、容器は常に蓋をしてください。
保管の際には密栓して冷暗所に保管してください。
- ご使用に際しての安全上の注意事項に関しては、製品の安全データシート（SDS）をご参照下さい。
- 当インフォメーションに記載されている内容は予告無しに変更・改訂する場合があります。
- この特性データは、弊社の実施した評価結果に基づくもので、お客さまのご使用時の製品特性を保証するものではありません。
- 使用の際は、実際に使用される装置及び被着材での評価結果に基づき、条件を十分ご検討の上、ご使用下さい。